

シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(116号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子

信仰: You shall be Holy.

- 街路樹の銀杏の葉が黄色づき紅葉を楽しむ間もなく、12月並の寒い日が続く、慌てて暖房器具を持ち出しました。皆さんの方は如何でしょうか。御元気で過ごしていますか。
- 待ちに待った「新改訳聖書2017」が届き、創世記から読み始めています。とても読みやすいと共に、主語に対する動詞の表現がとても良くなったと思います。
- そして、日頃余り読むことも少ない「レビ記」を読むに当たって、何か信徒でも分かる解説がないかとインターネットで調べたら、北海道の銘形秀則牧師がアップされている「牧師の書斎」という明解の上、丁寧な説き明かしに会い、それを手引きに読み進めています。
- 旧約聖書が書かれたヘブル語の解説はその知識がないので、聖書は巧みな言葉遣いで書かれているのに驚きながら、日本語聖書では読み取れない深い意味を教えられます。
- レビ記は「聖」、「聖別」がキーワードと言われている。新約聖書でも、この言葉が神の本性を表す言葉ですから当然至る所で出会います。
- ペテロも、手紙の中で「あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。」(第一1/15)と勧め、続けて、レビ記のこの御言葉を引用しています。
- 旧約時代は、この神の命令に外れれば命を失うのが当然というほどの厳しいものでした。銘形師は、現在の私たちがこの厳しさを忘れて「狎れて」しまっているのではと指摘しています。
- そして、その一方で、レビ記19/2と20/26を対比しながら前者の「shall」が「しなければならない」という意味に対して、後者では「必ずそのようになる」という神の恵みによる約束が述べられていると説き明かされています。
- 私たちは、自分の努力では決して「聖である」ことは出来ません。しかし、私たちは信仰によって、主イエスの十字架によって既に「聖」と見なされており、主の再臨まで「聖化」の道を歩むことができる者と変えられているという恵みは、何という驚きでしょうか。
- イスラエルの民を自分の民とするためにエジプトから選り出したように、私たちは闇と死の世界から聖なる神の一方的な憐れみによって恵みへと引き出されたのです。「わたしが憐れみから、あなたがたも、聖くなければならない」と言われる神に私たちはどう応えたら良いのでしょうか。
- 代価なしに受けているこの計り知れない恵みを再度確認し、パウロがローマ書で勧める「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」に従い、全てを神に捧げる歩みをしたいと願います。

■ 先月の多くの恵みから

- ① 10/1にの礼拝は Holy Hope Projectの竹下 力師が奉仕して下さい、聖餐式について学び、聖餐式を執り行って頂きました。「山形芋煮会」で御労に感謝しました。
- ② 阿部は、上越市で行われた大学の同級会に参加する機会に10/1-5にわたり、リハビリ中の濱 道子姉を佐久市の病院にてお見舞いし、今年の大震災で5年にわたり継続して支援下さった福音伝道教団の本庄キリスト教会(吉田孝師)、大泉キリスト教会(中川信嗣師)、小山聖書キリスト教会(田嶋直秀師)を訪問してお礼を述べる事が出来ました。
- ③ Dean師ご夫妻は2ヶ月にわたるアメリカでの宣教報告から10/18に無事戻られました。

● <祈りの要請>震災後、石巻地区に新会堂を献堂した各教会に教会と働き人を支える土台となる地元の家族が救われるように！



- ④ J-Symphonieは10/6-15まで宮城県の被災地の15箇所支援コンサートをして下さいました。石巻では「希望の家」や復興住宅の他、3つの教会で奉仕をされました。感謝！
- ⑤ 10/12に大震災初期にサマリタンズ・パースで奉仕下さりその後南スーダンイタリアで奉仕されてきたアン・リンさんが訪問下さいました。
- ⑥ 10/21に雨であつたこともあり腰痛で山に登れない阿部のために、「馬つ子山早天祈祷会」を「祈りの家」で開いて頂き石巻市民の救いのために心を合わせて祈ることが出来感謝しました。
- ⑦ 10/18に、渡波キリスト教会で来年度の「南三陸3.11大震災追悼記念会」の第5回準備委員会が開かれました。次年度は3/11が日曜日なので、3/10に南三陸のホテル観洋でメインの追悼記念会を開き、3/11には気仙沼、登米、石巻で記念コンサートが持たれる予定です。必要資金面で課題がありますのでお祈りと共にサポートをお願いいたします。
- ⑧ 10-11月の毎週水曜日に9回にわたり、地本紙「石巻かほく」にエッセーを書くことになりましたので、神に用いられるようにお祈り下さい。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① 自宅療養中の大平姉と求道中のガンと闘っている今野かつ子さん、同じくガンで闘病中のボランティアのDeaさんが10/30に手術をする予定ですので神の支えをお祈り下さい。
- ② 市内の新しく開拓を始めた教会に、その教会を支える地元の家族が救われるようにお祈り下さい。

群の定期集会

・礼拝(毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会(毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time(第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」(第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸(第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援(地域の子どもの要望に応じて)	

信仰を詠う

11月 ときめき

白髪をアンシンメトリーにとカットする
美容師の技にときめきのとき
薄紅を引いて鏡にうつる顔
ピカピカ跳ねた昔ありました
丸太小屋、ベツレヘムの星、キルトする
おも 聖誕憶い ときめき系ぐ つな



阿部 八重子

白髪染めを止めて早
や一年、どこから見て
も しょぼくれの白髪
婆さん。がっくりし乍
らもちょっとお洒落に
憧れて鏡を見る

9月末から10月末までに来訪された先生・兄弟および「祈りの家」の教会活動の様子



10/3 50年振りの大学同級会で

10/6より10日間被災地支援コンサートのJ-Symphonieの北方/長チーム

10/11 「希望の家」で

FB friendの Summer姉とICCCで



10/3 佐久総合病院で演婦お見舞い

10/4本庄教会吉田師を訪問し、祈り会に参加でき、屋敷の恵みまで

10/4大泉CCの中川師を訪問

10/4小山聖書CCの田嶋師とホテルで



10/12 アン・リンさんの訪問

楽しい手芸の会新会員が作品を手に

10/18 渡波CCでの第5回3.11追悼記念会準備委員会

10/17 ほっと・Timeでパッハのオルガン曲

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

信仰の歩みの中で――

50年目の同級会

キリスト教会「石巻祈りの家」代表 阿部 一

私は、人が群れるところに身を置くことが得意ではない。だから、プロ野球中継などをTVで見ながら、あの熱狂の中に自分がいれば自分はきっと冷めた気持ちになるだろうと思う。それ故に、卒業した学校や勤務した学校での同窓会の案内などをいただいても一向に気が向かずほとんどキャンセルしてきた。

ところが、2011年に発生した東日本大震災がきっかけとなって教え子や同級生と密なつながりが次々と出来上がった。まず、大学の同級生の一人がインターネットで、もう一人が宮城県と山形県の教会に電話をして私の安否情報を得ようと努力してくれた。

そして、ニューヨークに住む中高が一緒に、特に共に中学校時代生徒会役員として活動した江部 孝君が高校の同窓会名簿から私を捜しだし、安否を問う電話をくれた。その後2年に一度の割合で被災地を訪問してくれている。そして、私の群の支援活動を見てからは2ヶ月に一度NYから1時間以上の長電話をくれる。その後その彼が、中高と一緒にだった同級生と私を繋いでくれ、その同級生が直接に訪問してくれたり、電話や手紙をもらうようになった。

その彼から、昨年秋に「同級生が喜寿ともなり、これが最後の同学年の集まりとなるであろうから、今回は是非出席するように」と勧められて、母校米沢興譲館の集まりに出席した。60年振りの出席だから、集まったほとんどは顔も覚えていない。そんな中で江部君の話や「ガマ」と渾名で呼ばれていたなどと自己紹介されると、一瞬にして高校時代の姿が甦り、「彼は教室では私の左前の席だった。」などと思い出すのに自分ながら驚くと共に、自分のことをこんなにも多くの同級生が覚えてくれていたことに感謝し、忘れられない経験となった。

その後は、酒田での2校目に勤務した女子高で、1年だけの担任だった教え子が東京と酒田から待ち合わせて訪ねてくれて震災支援活動の現場を見てもらった。

それに続いて、最初の勤務校であった酒田工業高校で最初に担任し、転勤のために2年しか担任できなかった教え子が、忙しいだろうからと何と石巻まで来て料亭で同級会を開いてくれた。それも2人は奥さん同伴で、「いつも主人に先生のことを聞いて

いるので私も教え子のような気分で一緒に来た」と。こちらは最初の担任であったので名前とその当時の顔は50年経っても直ぐにでも思い出せたが、いざ会ってみるとその面影はあるもののこの長い年月の間に彼ら一人一人が仕事を通し、家庭を築き、子ども達を育てながら社会人として培ってきたその成長の姿には驚くばかりであった。思い出話に花が咲く中で、改めて自分の人生の中で彼らとの出会いがあったことに感謝した。

教師になるために地元の山形大学教育学部中学課程理科という長い名の専攻科は、私たちの上や下は15～20名はいたが、私たちの学年は男子5名、女子3名のわずか8名であった。昭和30年代のことであるから、今の大学生には想像も出来ないだろうが、それぞれが男子校や女子高出身だから異性と話す経験などなかったし、男子はそれぞれが貧しくてアルバイトしなければ生きて行けなかった上、それぞれが独立独歩的な性格であったから、授業以外で心を割って話し合うこともなかった。特に女性とは4年間で、何かの連絡事項の伝達だけでそれ以外で話した記憶がない。これは私だけではなかった。

50年間、それでも男子は年賀状の交換はあったがそれぞれが日頃何の連絡もなく過ごしてきたから、その間に一人が退職後に病気で亡くなり、もう一人とは連絡が取れなくなった。

それが3年前に、年を取ってそれぞれが昔の事が懐かしくなり、卒業して50年にもなるので会おうということになり、松島の旅館で一泊して寝る時間も惜しむように学生時代の思い出を話し合い、秋の松島を楽しんだ。

その時、新潟県の上越市に結婚で移り住んだ女性のご主人の介護のために出席できなかった。そこで、是非彼女とも会っておきたいと急に合意が出来て、10/2に彼女の家の近くの旅館で53年振りに会う事になった。手が離せない彼女が娘さんにご主人をお願いして懇親会で懐かしい再会となった。会えば、53年間の年月は直ぐに埋め合わされて、卒業時からのそれぞれの人生の歩みや家族のことと共に学生時代の思い出を改めて共有できた。学生時代は一言も話した記憶がないのにもかかわらず、話し始めると互いが聞き合う沢山の思い出があった。それこそ、時間を忘れての語り合いとなった。そして、互いが一緒に過ごした場や時代に、話し合う以上にお互いが学び、影響し合っていたことに気づかされた。人は直接の関わりがなくても周りの人に支えられ、励まされる。残念ながら、この会の準備をしてくれた一人が健康の理由で直前に参加できなかった。同級生との再会に感謝し、それぞれが老いを背負って生きている年齢だけに、一日一日を大切に生きてゆこうと別れに確認し合った。再度の再会はあるのだろうかこの恵みの時を神に感謝した。

